



講義概要  
指導計画  
*Curriculum & Syllabus*

2022

こども未来学科

児童福祉科

保育士養成科

南海福祉看護専門学校

## 2022年度開講科目

こども未来学科・児童福祉科  
保育士養成科

系列	教 科 名	単位数		担当者	1年		2年		ページ
		必須	選択		前期	後期	前期	後期	
教養科目	人権教育	講義	2	北村	○				1
	情報技術	演習	2	永野	○	○			2
	基礎教養講座	演習	2	前田・北村			○	○	25
	英語(選択)	演習	2	白濱	○	○			3
	体育講義	講義	1	相奈良	▼	▼			4
	体育実技	実技	1	相奈良	▲	▲			
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	木下	○				5
	教育原理	講義	2	木下		○			6
	子ども家庭福祉	講義	2	原		○			7
	社会福祉	講義	2	原	○				8
	子ども家庭支援論	講義	2	板谷	○				9
	社会的養護 I	講義	2	原		○			10
	保育者論	講義	2	木下		○		★	26
保育の対象の理解に関する科目	保育原理 II(選択)	講義	2						
	保育の心理学	講義	2	前田	○				11
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	前田		○			27
	子どもの理解と援助	演習	1	前田		○			12
	子どもの保健	講義	2	小橋		○		★	13
	子どもの食と栄養	演習	2	大杉		◎			28
保育の内容・方法に関する科目	カウンセリング(選択)	演習	1	前田			○		29
	保育の計画と評価	講義	2	木下		○		★	30
	保育内容総論	演習	1	木下			○	★	31
	健康	演習	1	小川		○		★	14
	人間関係	演習	1	木下		○		★	15
	環境	演習	1	板谷		○		★	16
	言葉	演習	1	小川		○		★	17
	表現 I	演習	2	森崎	○	○			18
	乳児保育 I	講義	2	小川	○			★	19
	乳児保育 II	演習	1	小川		(○)			48
	子どもの健康と安全	演習	1	小橋		○		★	32
	障害児保育	演習	2	原		○			33
	社会的養護 II	演習	1	北村			○	★	34
	子育て支援	演習	1	北村		○			35
	造形表現 II	演習	1	板谷		(○)			49
	表現 II	演習	2	森崎		○	○		36
	造形表現 III(選択)	演習	1						
	子どもと文学(選択)	講義	2						
保育実習	音楽表現 I	演習	2	森崎	○	○			20
	造形表現 I	演習	1	板谷	○			★	21
	身体表現	演習	1	相奈良		○			37
	言語表現	演習	1	小川	○			★	22
	音楽表現 II	演習	2	森崎		○	○		38
	レクリエーション実技	演習	2	北村	○	○			23
	レクリエーション概論(選択)	講義	2						
	保育所実習 I	実習	2		○				
	施設実習 I	実習	2			○			
	保育実習指導 I	演習	2	小川・板谷	○	○			24
総合演習	保育所実習 II	実習	2			○			
	施設実習 II	実習	2				○		
保育実習	保育実習指導 II	演習	1	木下・小川		○			39
	保育実践演習	演習	2	板谷		○	○	★	40
卒業研究				北村			○		41
				森崎			○		42
				木下			○		43
				小川			○		44
				前田			○		45
				板谷			○		46
				原			○		47
	ホームルーム				○	○	○		

※「保育所実習 II」または「施設実習 II」のいずれかを必修とする。  
(○)は今年度開講なし

※○は1コマで15回授業

※▲▼は合わせて30回授業

※◎は1コマで30回授業

※★は「実務経験のある教員による授業科目」の指定科目

授業科目名	人権教育	講師名	北村博文
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30時間
概要 保育現場、幼児教育の現場における人権教育だけでなく、人権教育全般に対して理解を深めていきます。また、保育者として持たなければならない様々な人権感覚を明らかにしていきます。			
<b>目標</b>			
1. 人権教育の基本的な意義と目的の理解ができる 2. 人権教育への取り組みについて理解ができる 3. 保育者としての様々な人権感覚を養うことができる			
<b>内容</b>			
1. 人権について 2. 人権への取り組み 3. 女性の人権について 4. 子どもの人権について 5. 高齢者の人権について 6. 障がい者の人権について 7. 外国人等の人権について 8. ハンセン病回復者等の人権について 9. 心の病に関して 10. 人権侵害について 11. 性的マイノリティ等の人権について 12. 職業や雇用をめぐる人権問題について 13. 様々な人権問題について 14. 人権に関する相談について 15. まとめ			
<b>教科書</b> 大阪府人権白書「ゆまにてなにわ」			
<b>授業の形態</b> 講義			
<b>／方法</b> ／教科書を中心に講義をおこなう。			
<b>評価方法</b> 筆記試験（90%）、提出物と授業態度（10%）を総合して判断する。			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	情報技術	講師名	永野 千恵美			
実施年次 ／時期	1年次 通年	時間数	60 時間			
<b>概要</b>						
Word・Excel機能の習得、園だよりやクラス表など仕事上必要な文書や集計表などへの展開・使用方法を学びます。						
<b>目標</b>						
社会生活で不可欠なPC操作の基礎知識及び技術を身に付け、仕事に役立てる技法を習得する 情報技術を身に付け、様々な文書、表作成、計算式に対応できる技量を身に付ける						
<b>内容</b>	16. 前期復習、確認練習問題 17. 簡単なイラストの作成 18. おたよりなど案内文作成1(Word) 19. おたよりなど案内文作成2(Word) 20. おたよりなど案内文作成3(表入りWord) 21. おたよりなど案内文作成(タブ設定Word) 22. 複雑なレイアウトのおたよりや案内文作成(Word) 23. クラス名簿の作成1(Excel) 24. クラス名簿の作成2グラフ展開(Excel) 25. クリスマスカード・年賀状作成(Word) 26. 児童台帳の作成、データベース(Excel) 27. 児童台帳編集、関数応用、グラフ展開(Excel) 28. Word・Excel総復習 29. 入力速度試験、試験範囲解説 30. まとめ					
	1. ガイダンスとパソコンの基本操作 ネットワークやデータの取扱 2. タイピング、文字入力、文章入力(Word) 3. タイピング、ビジネス文書の作成練習(Word) 4. タイピング、段落書式など、文書校正(Word) 5. タイピング、表作成(Word) 6. タイピング、図形などオブジェクトの取り扱い(Word) 7. タイピング、文書作成まとめ(Word) 8. タイピング、データ入力(Excel) 9. タイピング、数式、オートSUM関係(Excel) 10. タイピング、表の体裁、絶対参照(Excel) 11. タイピング、その他の関数(Excel) 12. タイピング、グラフ作成(Excel) 13. タイピング、データベース(Excel) 14. 前期総復習 15. 前期まとめ					
<b>教科書</b>						
保育者のためのパソコン講座(萌文書林) 30時間でマスターWord & Excel 2016(実教出版)						
<b>授業の形態</b> 演習						
<b>／方法</b> ／コンピュータを使用し実技演習を行う。						
<b>評価方法</b>						
試験80%、成長度、提出物、授業態度など総合して20%の評価とする。						
<b>その他の事項</b>						

授業科目名	英語	講師名	白濱 尚美
実施年次 ／時期	1 年次 通年	時間数	60 時間
<b>概要</b> 英語での基本的③な挨拶・自己紹介・英語での Q&A ( 5W1H ) を学ぶ。 基礎英単語の復習。ABC カードを作成し、Phonics 教授法について学ぶ。テキストを用いて保育士としての英語表現を学ぶ。異文化について学び、保育内容の（人間関係・環境）などの知識とスキルして習得する。			
<b>目標</b> 中学校卒業程度の基礎的な英語能力を確認し実践できる Phonics 教授法をマスターし、英語の正しい発音を指導することができる 外国の文化を理解し、子どもたちに伝えることができる			
<b>内容</b>			
1、オリエンテーション・英語で自己紹介 2、外国の文化 (Easter) について 3、テキスト Unit 1 4、テキスト Unit2 5、Phonics について ABC カードの作成説明 6、ABC カード作成開始① 7、ABC カード作成② 8、ABC カード作成③ 9、実践的な Kids English について① 10、実践的な Kids English について② 11、実践的な Kids English について③ 12、実践的な Kids English について④ 13、実践的な Kids English について⑤ 14、実践的な Kids English について⑥ 15、ABC カード 中間報告（第 1 次提出日） English song for children(子どもの手遊びうた)実施テスト			16、後期授業オリエンテーション 前期復習 17、ABC カード 最終提出日（授業内） 18、実践的な保育英語（テキスト使用） 19、外国の文化 (Halloween) について 20、外国の文化 (Halloween) レッスン実践 21、ABC カード 返却&実践練習 22、ABC カード実践試験日 23、実践的な保育英語（テキスト使用） 24、実践的な保育英語（テキスト使用） 25、実勢的な保育英語（テキスト使用） 26、外国の文化 (Christmas) について 27、外国の文化 (Christmas) レッスン実践 28、実践的な保育英語（テキスト使用） 29、まとめ 30、試験
<b>教科書</b> 土屋 麻衣子著 (株) 金星堂『Happy English for Children (保育のための基礎英語)』			
<b>授業の形態</b> 講義&演習			
<b>方法</b> 講義は教科書と CD を使用する。 演習は ABC カードを作成・実践したり、ハロウィンやクリスマスの実践レッスンを行う。			
<b>評価方法</b> 出席点・授業態度 (30 点)・提出物 (40 点)・試験 (30 点) で評価			
<b>その他の事項</b> 準備物として、中学生程度の英和辞典（和英辞典）必要。（電子辞書でも可）			

授業科目名	体育講義・体育実技	講師名	相奈良 律
実施年次 ／時期	1年次 通年	時間数	60 時間
<b>概要</b> 講義と実技を通して、身体運動に関する知識と実践のための方法や技術を身につけることを目的とする。学生自身が身体を動かす楽しさを体験する中で、子どもの発育発達をふまえてのイメージを膨らませ援助・指導に必要な知識や技能を習得する。また、保育者として必要な体力・運動能力の養成を図るために、運動遊びに加え、競技的なスポーツの実践を通して基礎技術の習得、ルールや特性についての理解を深める。			
<b>目標</b> ・各運動を安全かつ効果的に実施するための基本的な動きと基礎的な知識を理解することができる ・技術の高低や得意不得意、好き嫌いにとらわれず、自分の持っている技術を活かし運動そのものを楽しめる能力を身につけることができる ・学び合いを通して仲間とのコミュニケーション力・協調性を高める			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション 幼児体育の理論と現状、幼児の運動遊びの意義 2. 体育の歴史と文化 3. オリンピック・パラリンピック 4. 体力とは何か 5. 健康とは何か 6. 運動指導の留意点と安全への配慮 7. 熱中症・スポーツ外傷・応急処置 8. コミュニケーションワーク① （アイスブレーキング） 9. コミュニケーションワーク②（集団ゲーム） 10. ストレッチの理論と実践 11. コーディネーション運動 12. いろいろな鬼遊び① 13. いろいろな鬼遊び② 14. ニュースポーツ①（ソフトバレー） 15. ニュースポーツ②（ドッヂビー）			16. 長縄とび、短縄とびの理論と実践① 17. 長縄とび、短縄とびの理論と実践② 18. 走運動（かけっこ、リレー） 19. 器械運動①（マット運動の基本） 20. 器械運動②（とび箱の基本） 21. 器械運動③（鉄棒運動の基本） 22. 身近な素材を使った運動（新聞紙） 23. 用具を使った運動①（ボール） 24. 用具を使った運動②（ボール） 25. 用具を使った運動③（フープ） 26. 用具を使った運動④（グループ創作） 27. サーキットあそび 28. ニュースポーツ③（インディアカ） 29. ニュースポーツ④（ヘルスバレー） 30.まとめ
<b>教科書</b> 使用しない 必要に応じて適宜、資料を配布する			
<b>授業の形態</b> 講義・演習			
<b>ノ方法</b> ノ講義は教室、実技はアリーナを主に使用する 毎時、講義ノートに感想や気づきを記録する			
<b>評価方法</b> 講義…出席・受講態度 40%、筆記試験 60% 演習…出席・受講態度 60%、実技試験 40%			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	保育原理	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30時間
<b>概要</b> 子どもを取り巻く現状を知り、乳幼児期の特性を理解した上で、保育の意義や目的を理解し、保育の内容と方法を学ぶ。また、保育の歴史的変遷を理解し、保育における現状や課題について理解を深める。			
<b>目標</b>			
1. 保育の意義と目的を理解し、保育者としての基礎的な知識や技術を身に付けることができる 2. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づく、保育内容や方法について理解できる 3. 保育に関する法令及び制度を理解できる 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解できる 5. 子どもを取り巻く環境の変化を理解し、保育の世界における現状や課題について理解できる			
<b>内容</b>			
1. 「保育」とは何か① 保育の意義と意味 2. 「保育」とは何か② 保育の対象と保育の基本 3. 保育の基盤としての子ども観 4. 保育における「子ども理解」① 子どもを見るということ 5. 保育における「子ども理解」② 子どもの行為の意味を知る 6. 保育の歴史 7. 保育の基本と保育内容・方法① 環境を通して行う教育 8. 保育の基本と保育内容・方法② 幼児期にふさわしい生活の展開 9. 保育の基本と保育内容・方法③ 遊びを通しての総合的な指導 10. 保育の計画と評価① 保育計画の実際 11. 保育の計画と評価② 記録と評価 12. 保育における健康・安全の原理 13. 保育者の専門性 14. 保育の現状と課題 15. まとめ			
<b>教科書</b> 『新しい保育講座① 保育原理』渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀 編 (ミネルヴァ書房) 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原文>』文部科学省 厚生労働省 内閣府(チャイルド本社)			
<b>授業の形態</b> 講義			
<b>／方法</b> ／教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。			
<b>その他事項</b> 幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	教育原理	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30時間
<p><b>概要</b> 教育原理は、教育の本質や目的、内容や方法などについて、基本的な知見を蓄えることが期待される科目である。本授業では、教育の研究や実践に不可欠だと考えられる概念や議論を、出来るだけ分かりやすく紹介・解説し、教育に関する歴史や思想にふれながら基本的な考え方について理解を深めることを目的とする。また、「教育とは何か」という問い合わせに対して、幼稚園・保育所の歴史を通して、今後教育はどうあるべきかを問い合わせ続ける姿勢を身に付ける。</p>			
<p><b>目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解できる</li> <li>2. 教育思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解できる</li> <li>3. 教育の制度について理解できる</li> <li>4. 教育実践の様々な取り組みについて理解できる</li> <li>5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解できる</li> </ol>			
<p><b>内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 教育とは</li> <li>2. 教育の意義と目的</li> <li>3. 教育と児童福祉</li> <li>4. 教育と地域社会</li> <li>5. 教育制度の基本</li> <li>6. 教育の思想と歴史的変遷① 諸外国の教育の歴史</li> <li>7. 教育の思想と歴史的変遷② 日本の教育思想・歴史</li> <li>8. 教育の思想と歴史的変遷③ 近代教育の歴史</li> <li>9. 子ども観と教育観の変遷</li> <li>10. 教育行政および学校経営の基礎</li> <li>11. 保育・教育実践の基礎理論</li> <li>12. 教育実践の多様な取り組み</li> <li>13. 生涯学習社会と教育</li> <li>14. 現代の教育課題</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<p><b>教科書</b> 『いまがわかる教育原理』西本望 編 (みらい)</p>			
<p><b>授業の形態</b> 講義</p>			
<p><b>／方法</b> ／教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。</p>			
<p><b>評価方法</b> 筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。</p>			
<p><b>その他の事項</b> 幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。</p>			

授業科目名	子ども家庭福祉	講師名	原 悅子
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30時間

### 概要

本科目では、子ども家庭福祉の制度・理論・実践に関する基礎的および専門的な知識や技術を学ぶ。子どもと子育て家庭をめぐる状況は、少子高齢化や核家族化、子育て観の多様化等の影響を受け大きく変化してきている。子どもたちの置かれている環境や子育て家庭が抱える生活課題について現状を理解する。

### 目標

1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解することができる
2. 子どもの人権擁護について理解することができる
3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解することができる
4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解することができる
5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解することができる

### 内容

1. 超少子高齢社会における子どもと子育て家庭の現状
2. 子ども家庭福祉の理念と専門職
3. 子ども家庭福祉の展開
4. 子どもの権利擁護
5. 子ども家庭福祉の法体系
6. 子ども家庭福祉の制度・事業
7. 子ども家庭福祉の実施体系
8. 子ども家庭福祉に関連する施設
9. 地域の子育て家庭への支援
10. 多様な保育ニーズへの対応
11. 障害のある子どもへの対応
12. 要保護・要支援児童への支援
13. 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応
14. 子ども家庭福祉の動向とソーシャルワーク
15. まとめ

教科書 『子ども家庭福祉入門』(ミネルヴァ書房)

授業の形態 講義

／方法 ／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用

評価方法 筆記試験 50%、授業時に行うレポート・課題への対応・発表業況など 50%

その他の事項

授業科目名	社会福祉	講師名	原 悅子
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30 時間
<b>概要</b>			
本科目では、現代の社会福祉に至るまでに辿ってきた歴史的変遷を通して、社会福祉の根幹をなす人権や生存権などの概念や、社会福祉法や老人福祉法といった現代の法制度、児童相談所や社会福祉法人などの社会福祉に関わる団体や機関などの現代の社会福祉の仕組みや現状について理解する。また、ソーシャルワークの定義や原則、福祉専門職として身につけることが望ましい傾聴や受容といった技術について理解する。			
<b>目標</b>			
1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解することができる。 2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解することができる。 3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解することができる。 4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解することができる。 5. 社会福祉の動向と課題について理解することができる。			
<b>内容</b>			
1. 社会福祉の理念と概念 2. 子どもの家庭支援と社会福祉 3. 欧米の社会福祉の歴史的変遷と現状 4. 日本の社会福祉の歴史的変遷 5. 社会福祉の法制度 6. 社会福祉の実施機関と施設 7. 社会福祉のサービス提供主体と在宅福祉・地域福祉の推進 8. 共生社会の実現と障害者施策 9. 社会福祉専門職 10. ソーシャルワークの定義 11. ソーシャルワークの過程 12. ソーシャルワークの方法と技術 13. 社会福祉における利用者保護にかかわる仕組み 14. 社会保障制度 15. まとめ			
教科書	子どもと社会の未来を拓く『社会福祉』(青崎社)		
授業の形態	講義		
／方法	／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用。		
評価方法	筆記試験 50%、授業時に行うレポート・課題への対応・発表業況など 50%		
その他の事項	社会福祉士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	子ども家庭支援論	講師名	板谷雅子
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30時間
<b>概要</b> 家庭とは何か、その形態・意義・機能を考察する。 それらを取り巻く社会状況が大きく変化し、家族も変革を求められている現状を認識する。 それに伴う家族への様々な支援のニーズとその対応が急務となっていることを把握する。			
<b>目標</b>			
1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的について理解できる 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解できる 3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援展開と子ども家庭支援の現状と課題について理解できる			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション 2. 子ども家庭支援の意義と必要性 3. 少子化社会の現状 4. 子ども家庭支援の目的と機能 5. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援 6. 子供の育ちの喜びの共有 7. 地域の資源の活用と自治体・関係機関などとの連携・協力 10. 保育士に求められる基本的態度 11. 家庭の状況に応じた支援 12. 地域の子育て家庭への支援 13. 送迎時の子育て支援 14. 様々な伝達手段を活用した子育て支援 15. まとめ			
<b>教科書</b> 「子どもの家庭支援・子育て支援入門」 才村純 芝野松次郎 新川泰弘 編著 ミネルヴァ書房			
<b>授業の形態</b> 講義演習			
<b>／方法</b> 教科書・配布プロントを中心に講師による解説・概説を行う			
<b>評価方法</b> 筆記試験 50%、授業の参加度 50%で総合的に評価します。			
<b>その他の事項</b> 幼稚園教諭として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	社会的養護 I	講師名	原 悅子
実施年次 ／時期	1 年次 後期	時間数	30 時間
<b>概要</b>			
本科目では、社会的養護の理念や概要、法体系や制度などを理解する。児童虐待や子どもの問題の深刻化・顕在化に伴い、児童福祉施設や里親など社会的養護のもとで生活する子どもは増えている。保育士としてこれらの現状を学び、社会的養護の基本的な内容について理解する。			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的養護の意義と変遷について理解することができる</li> <li>2. 社会的養護の養育・保護・治療について理解することができる</li> <li>3. 社会的養護の制度と法体系について理解することができる</li> <li>4. 社会的養護の施設養護と家庭養護について理解することができる</li> <li>5. 社会的養護の現状と課題について理解することができる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的養護の理念と概要</li> <li>2. 社会的養護の歴史的変遷</li> <li>3. 子どもの人権擁護と社会的養護</li> <li>4. 社会的養護の基本原則</li> <li>5. 社会的養護における保育士等の倫理と責務</li> <li>6. 社会的養護の制度と法体系</li> <li>7. 社会的養護のしくみと実施体系</li> <li>8. 社会的養護とファミリーソーシャルワーカー</li> <li>9. 社会的養護の対象と支援のあり方</li> <li>10. 家庭養護と施設養護</li> <li>11. 社会的養護にかかる専門職</li> <li>12. 社会的養護に関する社会的状況</li> <li>13. 施設等の運営管理の現状と課題</li> <li>14. 社会的養護の現状と課題</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b>			
『新 基本保育シリーズ6 社会的養護 I』(中央法規)			
<b>授業の形態</b> 講義			
<b>／方法</b> ／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用する。			
<b>評価方法</b>			
筆記試験 50%、授業時に行うレポート・課題への対応・発表業況など 50%			
<b>その他の事項</b> 社会福祉士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	保育の心理学	講師名	前田雄一
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30時間
<b>概要</b>			
保育士は、子どもと1対1で向き合う直接的な保育活動や保育士が前に立って関わる集団に向けての活動、環境構成などといった間接的な促しなどのさまざまな活動を担います。その活動の根底には、子どもの発達のプロセスや特性を理解し、実践の場で活用するスキルが求められます。この授業では、主に発達心理学の知見をもとに、子どもと保育の楽しさや難しさに触れていきます。			
<b>目標</b>			
1. 保育実践に関わる発達理論などの心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解できる 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深められる 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解できる			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション 2. 発達理解の意義と子ども観・保育観 3. 遺伝・環境と生涯発達 4. 発達段階 5. 胎児期から乳児期の発達 6. 幼児期の発達 7. 子どもの発達と環境 8. 感情の発達と自我 9. 身体的機能と運動機能の発達 10. 知覚と認知の発達 11. 言葉の発達と社会性 12. 乳幼児期の学びにかかる理論 13. 乳幼児期の学びの過程と特性 14. 乳幼児期の学びを支える保育・教育 15. 総括			
<b>教科書</b> プリントを配布するほか、準拠する教科書を用いる 保育に役立つ！子どもの発達がわかる本（金子龍太郎・吾田富士子、ナツメ社 2017）			
<b>授業の形態</b> 講義・演習			
<b>／方法</b> ／講義はプリントを使用。演習はグループワークを実施。			
<b>評価方法</b> 平常点(40点)・期末試験(60%)			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	子どもの理解と援助	講師名	前田雄一
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30 時間
<b>概要</b>			
子どもは、保育者や友達との関わりや遊びを通して、さまざまな葛藤を経験し、時にはつまずき傷つきながらも、多くを学び生きる力を身につけていきます。保育士は、子どもひとりひとりの発達の課題に合わせ、特別な配慮が必要かどうかを検討しながら、適切な援助や支援を行っています。			
この授業では、子どもを理解するための基本的な考え方や具体的な方法を理解し、保育士の援助や態度の基本について検討します。			
<b>目標</b>			
1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる 2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解できる 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解できる			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション 2. 養護と教育の一体的展開における子ども理解 3. 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 4. 子どもの生活や遊び 5. 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 6. 子ども相互の関わりと関係づくり 7. 集団における経験と育ち 8. 保育の環境の理解と構成 9. 環境の変化や移行 10. 子どもの観察・記録とその評価 11. 職員や保護者との連携 12. 発達の課題に応じた援助と関わり 13. 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 14. 発達の連続性と就学支援 15. 総括			
<b>教科書</b> プリントを配布する 新基本保育シリーズ 10 子どもの理解と援助(監修:児童育成協会 中央法規 2019)に準拠する			
<b>授業の形態</b> 講義・演習			
<b>／方法</b> ／講義はプリントを用います。演習はグループワークなどを行います			
<b>評価方法</b> 平常点(40%)、期末試験(60%)			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	子どもの保健	講師名	小橋 美栄子
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30 時間
<b>概要</b>			
子どもの発育・発達を円滑に促す保健活動を学び、子どもが健やかに発育・発達できる支援の方法を修得する。更には疾病が子どもに与える影響を理解した上で、その影響が最小となる為の援助・施策が理解できる。			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの心身の健康に関わる保健活動の意義を理解し、子どもの健康の現状と施策が理解できる。</li> <li>2. 子どもの発育・発達に関する知識を修得し、健康状態や健康問題の判断ができ、健やかに育つための支援の方法が理解できる。</li> <li>3. 子どもの疾病について学び、その予防法や適切な対応方法が理解できる。</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的</li> <li>2. 健康の概念と健康指標</li> <li>3. 現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策</li> <li>4. 地域における保健活動と子ども虐待防止</li> <li>5. 身体発育および運動発達と保健</li> <li>6. 身体発育および運動発達と保健と発育・発達の把握と健康診断・保護者との情報共有</li> <li>7. 生理機能の発達と保健（呼吸器・循環器）</li> <li>8. 生理機能の発達と保健（消化器・腎・泌尿器・脳神経）</li> <li>9. 生理機能の発達と保健（内分泌・免疫系・血液・水分・睡眠・排泄）</li> <li>10. 健康状態の観察および心身の不調等の早期発見</li> <li>11. 主な疾病の特徴①（新生児の病気・先天異常）*</li> <li>12. 主な疾病の特徴②（循環器・呼吸器・血液・消化器）*</li> <li>13. 主な疾病の特徴③（アレルギー・免疫・腎泌尿器・内分泌）*</li> <li>14. 主な疾病の特徴④（脳・その他）*</li> <li>15. 主な疾病の特徴⑤（感染症）（課題レポート）*</li> </ol> <p>*はそれぞれの疾病的予防と適切な対応の内容を含む</p>			
<b>教科書</b>			
「子どもの保健 新・基本保育シリーズ⑪」松田博雄・金森三枝 編集（中央法規出版）			
<b>授業の形態</b> 講義			
<b>／方法</b> ／教科書を使用			
<b>評価方法</b>			
課題レポート 20 % 定期試験 80 %			
<b>その他の事項</b> 看護師として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	健 康	講師名	小川 夕也
実施年次 ／時期	1 年次 後期	時間数	30 時間
<b>概要</b> 健康に生きるとはどのようなことを表しているのでしょうか。子どもの心と身体の育ちを学ぶとともに、豊かな育ちを支える援助のあり方について理解できるようにしていきましょう。			
<b>目標</b>			
1. 保育所保育指針における領域「健康」のねらいおよび内容について理解できる 2. 子ども自らが健康的な生活習慣を獲得するために適切な援助や指導ができる			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション 2. 健康とは 3. 子どもの身体機能の発達 4. 子どもの心の発達 5. 健康的な生活リズム 6. 子どもの園生活 7. 安全管理と安全教育 8. 健康を願う園行事のあり方 9. 食育とは 10. 健康を守るガイドラインについて 11. 領域としての健康 12. 乳児保育のねらいおよび内容 13. 1歳以上3歳未満児のねらいおよび内容 14. 3歳以上児保育のねらいおよび内容 15. まとめ			
<b>教科書</b> 改訂版〈ねらい〉と〈内容〉から学ぶ保育内容・領域 健康 清水将之・相樂真樹子 編著 わかば社			
<b>授業の形態</b> 演習			
<b>／方法</b> ／教科書および配布プリントによる講義およびグループワーク等の演習を行います。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 60%、レポート 30%、授業の参加度 10%で総合的に評価します。			
<b>その他の事項</b> 保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	人間関係	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30 時間
<b>概要</b> 本授業では、現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えていたる社会的要因について理解し、人とかかわることの意義や意味を学んだ上で、領域「人間関係」の基礎理論の理解を深めることを目的とする。			
<b>目標</b>			
1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて理解できる 2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達など子どもを深く理解し、保育実践に応用できる 3. 養育者・保育者など子どもを取り巻く人的環境における関係性について理解を深めることができる			
<b>内容</b>			
1. 子どもを取り巻く人間関係 2. 保育の基本と人とのかかわり① 「生きる力」の原点としての人間関係 3. 保育の基本と人とのかかわり② 領域「人間関係」とは 4. 乳幼児期における人とのかかわり① 0歳児の人間関係 5. 乳幼児期における人とのかかわり② 1歳以上3歳未満児の人間関係 6. 乳幼児期における人とのかかわり③ 3歳以上児の人間関係 7. 遊びのなかで育つ人間関係① 人とのかかわりと遊び 8. 遊びのなかで育つ人間関係② 子どもの遊び体験 9. 人とのかかわりを育てる保育の実践① 保育現場での実際 10. 人とのかかわりを育てる保育の実践② 遊びを通した総合的指導 11. 多様な配慮と保育構想 12. 小学校生活への連携 13. 子どもの人間関係と社会性・道徳性 14. 家庭や地域との連携 15. まとめ			
<b>教科書</b> 『ワークで学ぶ 保育内容「人間関係」』菊池篤子（みらい）			
<b>授業の形態</b> 演習			
<b>／方法</b> ／教科書や資料を使用し、グループワークやロールプレイングを中心に授業を進める。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。			
<b>その他の事項</b> 幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	環境	講師名	板谷雅子
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30 時間
概要 「保育の現場では、様々な環境が相互に関連し合い、子どもの豊かな育ちを支えている環境を通して行われる保育」とはどのようなものか、この授業で学ぶ			
<b>目標</b>			
1. 保育所保育指針における領域「環境」のねらいおよび内容について理解できる 2. 子どもの感性を育むための「環境」について、実践事例をもとにしながら理解することができる 3. 保育現場における環境構成の在り方を実践することができる			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション 2. 領域「環境」とは 3. 乳児の育ちと環境との関わり 4. 幼児の育ちと環境との関わり 5. 環境を通して行う教育の展開と、保育者の役割 6. 様々な環境との関わり① 7. 様々な環境との関わり② 8. 幼児の遊びの環境 9. 園の環境をデザインする 10. 園の環境をデザインする 11. 園の環境をデザインする 12. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 13. 安全環境 14. 子どもの育ちをつなぐ 15. まとめ			
<b>教科書</b> 保育内容 環境【乳幼児教育・保育シリーズ】 神長美津子・掘越紀香・佐々木晃 編著 光生館			
<b>授業の形態</b> 演習			
<b>ノ方法</b> ノ教科書および配布プリントによる講義およびグループワーク等の演習を行います。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 50%、レポート 30%、授業の参加度 20%で総合的に評価します。			
<b>その他の事項</b> 幼稚園教諭として 5 年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	言葉	講師名	小川夕也
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30時間
概要 言葉は人間が持つ特有のコミュニケーション手段です。乳幼児期の子どもたちがどのように言葉を獲得し、社会とのつながりを築いていくのか学んでいきましょう。			
<b>目標</b>			
1. 保育所保育指針における領域「言葉」のねらいおよび内容について理解できる 2. 乳幼児の言葉の発達過程を知り、保育者にとって望ましい援助のあり方について理解できる			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション 2. 言葉とコミュニケーション 3. 保育内容「言葉」の意義 4. 領域「言葉」とは 5. 領域「言葉」の「ねらい」および「内容」 6. 子どもの言葉の発達（0～2歳頃） 7. 子どもの言葉の発達（3～6歳頃） 8. 子どもの言葉と環境 9. 保育者の指導・支援（0～2歳頃） 10. 保育者の指導・支援（3～6歳頃） 11. 言葉の発達の課題 12. 言葉の発達に課題を抱える子どもへの指導・支援 13. 言葉の発達を支援する保育者の言葉 14. 事例から見る保育者の言葉 15. まとめ			
教科書	『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』 駒井美智子 編 (株) みらい		
授業の形態	演習		
／方法	／ 前期「言語表現」で学んだことを踏まえ、領域「言葉」の理解を深めるための演習を行います。		
評価方法	筆記試験 60%、レポート 30%、授業の参加度 10%で総合的に評価します。		
その他の事項	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	表現 I	講師名	森崎良尚
実施年次 ／時期	1 年次 通年	時間数	60 時間

### 概要

保育内容を理解し、子どもの音楽表現遊び・身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を自己発見・自己表現という一つの表現手法の流れに従い、音楽表現領域・身体表現領域・言語表現領域から見出し、保育方法を習得していくことを目的とする。また、子どもの音楽表現・身体表現の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識も合わせて習得する。

授業内容や順序は、皆さんの様子や到達状況を見て調整する場合があります。

### 目標

- 一人で人前に出て笑顔で元気よく話すことができる
- 絵本の読み聞かせ・手遊び・なぞなぞ・ピアノ弾き歌いの基礎を身に着けることができる
- 模擬設定保育（先生ごっこ）で、保育者や子どもの動きを理解し実践できる

### 内容

- |                         |                              |
|-------------------------|------------------------------|
| 1. 100 種類の歩き方による表現遊び    | 16. 模擬設定保育(5 歳)音楽表現・身体表現等    |
| 2. 一人で人前に出て表現活動開始       | 17. 模擬設定保育(4 歳)音楽表現・身体表現等    |
| 3. 一芸披露と表現力観察           | 18. 模擬設定保育(3 歳)音楽表現・身体表現等    |
| 4. 笑顔キープと滑舌             | 19. 模擬設定保育(2 歳)音楽表現・身体表現等    |
| 5. 人と目を合わす 良い姿勢 立ち居振る舞い | 20. 模擬設定保育(1 歳)音楽表現・身体表現等    |
| 6. 絵本の持ち方・使い方・読み聞かせ①    | 21. 模擬設定保育(0 歳)音楽表現・身体表現等    |
| 7. 手遊び歌の方法と実践①          | 22. 劇指導のためのエチュード(配役・読み合わせ)   |
| 8. なぞなぞの方法と実践①          | 23. 劇指導のためのエチュード(読み合わせ・演技演習) |
| 9. 模擬設定保育（先生ごっこ）練習      | 24. 劇指導のためのエチュード(立ち稽古)       |
| 10. 模擬設定保育（先生ごっこ）練習     | 25. 劇指導のためのエチュード(立ち稽古)       |
| 11. 模擬設定保育（先生ごっこ）発表     | 26. 劇指導のためのエチュード(通し稽古)       |
| 12. 絵本の持ち方・使い方・読み聞かせ②   | 27. 劇指導のためのエチュード(発表・ふりかえり)   |
| 13. 手遊び歌の方法と実践②         | 28. 保育所実習準備確認                |
| 14. なぞなぞの方法と実践②         | 29. 保育所実習準備確認                |
| 15. まとめ                 | 30. まとめ                      |

### 教科書 適宜資料配布

### 授業の形態 演習

- ／方法 ／授業前半：毎回一人で人前に出て、与えられた課題にチャレンジする。  
授業後半：グループワークなどで表現活動を行い保育方法を学ぶ。

### 評価方法 毎時間の実技試験と期末実技試験。

### その他の事項

<b>授業科目名</b>	乳児保育 I	<b>講師名</b>	小川夕也
<b>実施年次 ／時期</b>	1 年次 前期	<b>時間数</b>	30 時間
<b>概要</b> 待機児童が社会問題として注目を帶びる中、乳児保育のニーズはますます高まりを見せて います。本授業では、現場において細やかな対応が求められる乳児の育ちを正しく理解し、 一人一人の心に寄り添える保育者の育成を行います。			
<b>目標</b>			
1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷および役割等について理解できる 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できる 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容について理解できる 4. 乳児保育における職員間の連携・協働および保護者や地域との連携について理解できる			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション 2. 乳児保育の目的と役割 3. 乳児保育の基本 4. 0・1・2歳児の発達 5. 乳児（0歳児）の保育内容 6. 1歳以上3歳未満児の保育内容 7. 乳児の生活と遊びの基本的事項 8. 乳児の生活の基本 9. 乳児の遊び 10. 乳児保育の環境構成 11. 乳児保育における全体的な計画 12. 乳児保育における子育て支援 13. 乳児保育における連携 14. 一人一人を健やかに育んでいくために 15. まとめ			
<b>教科書</b> 『講義で学ぶ乳児保育』 小山朝子 編著 わかば社			
<b>授業の形態</b> 講義			
<b>／方法</b> /教科書および配布プリントによる講義を行います。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 80%、授業への参加度 20%で総合的に評価します。			
<b>その他の事項</b> 保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	音楽表現 I	講師名	森崎 他																														
実施年次 ／時期	1 年次 通年	時間数	60 時間																														
<b>概要</b>																																	
保育内容を理解し、具体的な音楽表現活動が展開できる技術と音楽的知識の習得を目的とする。また保育内容にそって、子どもの音楽活動を援助し、成長過程における豊かな人格形成（情緒・表現鑑賞等）を育成することをテーマに学習する。																																	
<b>目標</b>																																	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ト音記号・ヘ音記号の読譜ができる</li> <li>2. 右手弾き→右手弾き歌い→左手弾き→左手弾き歌い→両手弾き→両手弾き歌いの練習過程を理解し実践できる</li> <li>3. 前奏から歌に入る際に「さんはい」の合図ができる</li> <li>4. 童謡弾き歌いをフルコーラスノーミスで、1年間に最低 15 曲合格できる</li> </ol>																																	
<b>内容</b>																																	
<table border="0"> <tr> <td>1. クラス分け・オリエンテーション</td> <td>16. ※個人の上達に合わせてピアノ教則本</td> </tr> <tr> <td>2. ※以降の授業は、入学合格者課題である</td> <td>17. を使用する。ただし、バイエル 66 番</td> </tr> <tr> <td>3. ピアノ弾き歌い、数曲の到達度をもと</td> <td>18. 以降のレベルの曲とする。</td> </tr> <tr> <td>4. に個人のレベルに応じた個人レッスン</td> <td>19. 保育所実習での課題曲も曲数カウント</td> </tr> <tr> <td>5. や基礎楽典指導を実施する。</td> <td>20. の対象とする。</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>21.</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>22.</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>23.</td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td>24.</td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td>25.</td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td>26. 保育所実習課題曲到達度確認</td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td>27. 保育所実習課題曲到達度確認</td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>28.</td> </tr> <tr> <td>14.</td> <td>29.</td> </tr> <tr> <td>15. 前期のまとめとして発表会を実施</td> <td>30. 後期のまとめとして発表会を実施</td> </tr> </table>				1. クラス分け・オリエンテーション	16. ※個人の上達に合わせてピアノ教則本	2. ※以降の授業は、入学合格者課題である	17. を使用する。ただし、バイエル 66 番	3. ピアノ弾き歌い、数曲の到達度をもと	18. 以降のレベルの曲とする。	4. に個人のレベルに応じた個人レッスン	19. 保育所実習での課題曲も曲数カウント	5. や基礎楽典指導を実施する。	20. の対象とする。	6.	21.	7.	22.	8.	23.	9.	24.	10.	25.	11.	26. 保育所実習課題曲到達度確認	12.	27. 保育所実習課題曲到達度確認	13.	28.	14.	29.	15. 前期のまとめとして発表会を実施	30. 後期のまとめとして発表会を実施
1. クラス分け・オリエンテーション	16. ※個人の上達に合わせてピアノ教則本																																
2. ※以降の授業は、入学合格者課題である	17. を使用する。ただし、バイエル 66 番																																
3. ピアノ弾き歌い、数曲の到達度をもと	18. 以降のレベルの曲とする。																																
4. に個人のレベルに応じた個人レッスン	19. 保育所実習での課題曲も曲数カウント																																
5. や基礎楽典指導を実施する。	20. の対象とする。																																
6.	21.																																
7.	22.																																
8.	23.																																
9.	24.																																
10.	25.																																
11.	26. 保育所実習課題曲到達度確認																																
12.	27. 保育所実習課題曲到達度確認																																
13.	28.																																
14.	29.																																
15. 前期のまとめとして発表会を実施	30. 後期のまとめとして発表会を実施																																
<b>教科書</b>																																	
保育のうた・こどものうた 120																																	
<b>授業の形態 演習</b>																																	
／方法 ／5~6 名のグループに分かれての個人レッスンとグループレッスン。																																	
<b>評価方法 授業中に合格した曲数と実技試験。</b>																																	
<b>その他の事項</b>																																	

授業科目名	造形表現 I	講師名	板谷雅子
実施年次 ／時期	1 年次 前期	時間数	30 時間
<b>概要</b> ①造形の基本的な理論と基礎技術を習得する ②具体的にテーマに沿った制作を体験し子どもの造形活動の具体的な支援方法、「素材の設定」「環境準備」「道具の扱い」「声かけ」「指示方法」「ねらい」などを理解する。			
<b>目標</b>			
1. 子どもの発達と造形表現について理解できる 2. 造形の基礎的な知識や技術を習得できる 3. 造形表現の良さや楽しさを実感し、感性を豊かできる (授業中の作業速度、内容理解や興味に応じて内容は、可変)			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション 2. 作品袋づくり 3. 作品袋づくり 4. 立体表現① 紙粘土 5. 立体表現② 紙コップ 6. 平面表現 モダンテクニックを使って スクラッチ 7. 平面表現 モダンテクニックを使って ステンシル 8. 平面表現 モダンテクニックを使って スタンピング 10. 平面表現 モダンテクニックを使って フロッタージュ 11. 平面表現 モダンテクニックを使って はじき絵 12. 折り紙遊び 13. 折り紙遊び 14. コラージュ 15. まとめ			
教科書	教科書は使用せず、必要に応じてプリント配付		
授業の形態 ／方法	演習 教員による説明や実演などから課題の内容を理解し、学生各自が創意工夫しながら制作に取り組む。		
評価方法	授業態度/課題 80% 試験 20% を総合して評価する。		
その他の事項	幼稚園教諭として 5 年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	言語表現	講師名	小川夕也
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30 時間
概要	現場では、日々の子どもたちの育ち、興味・関心に基づいて保育内容を考えます。本授業では、子どもの豊かな育ちにとって大切な言語を用いての表現方法について学び、現場で実践するための技術を身につけていきます。		
目標	<p>1. 保育現場での実践を想定し、子どもの遊びを豊かにするために必要な知識や技術が習得できる</p> <p>2. 児童文化財の特性を理解し、活用方法および作成するための技術が習得できる</p>		
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 自己紹介</li> <li>2. 自己紹介のための名札づくり</li> <li>3. 名札を用いての自己紹介</li> <li>4. 3歳未満児の手遊び歌</li> <li>5. 3歳以上児の手遊び歌</li> <li>6. 児童文化財とは</li> <li>7. 絵本の種類と選び方</li> <li>8. 絵本の読み聞かせ</li> <li>9. 紙芝居の扱い方</li> <li>10. ペーパーサート作り</li> <li>11. ペーパーサート実演（グループ1）</li> <li>12. ペーパーサート実演（グループ2）</li> <li>13. 総合発表会（グループ1）</li> <li>14. 総合発表会（グループ2）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書	『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』 駒井美智子 編 (株)みらい また、随時プリントを配布します。		
授業の形態	演習		
／方法	／多くの実践・発表等がありますので、積極的な参加を望みます。		
評価方法	筆記試験 40%、実践・発表、授業への参加度 60%で総合的に評価します。		
その他の事項	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	レクリエーション実技	講師名	北村博文		
実施年次 ／時期	1年次 通年	時間数	60時間		
概要 人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めたレクリエーション技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。演習で学んだことを振り返りながら、記録としてまとめる力も身につける。					
<b>目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レクリエーションの意義と目的の理解ができる</li> <li>2. レクリエーションの設定立案ができる</li> <li>3. 各自分で設定立案したレクリエーション実技において、安全に援助ができる</li> <li>4. 演習で学んだことを振り返り、記録としてまとめることができる</li> </ol>					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <b>内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. レクリエーションの意義と目的</li> <li>2. レクリエーション体験（乳児）</li> <li>3. レクリエーション体験（幼児）</li> <li>4. レクリエーション体験（幼児）</li> <li>5. 教材を使ったレクリエーション体験（乳児）</li> <li>6. 教材を使ったレクリエーション体験（幼児）</li> <li>7. 教材を使ったレクリエーション体験（幼児）</li> <li>8. 楽しさと心の元気づくりの理論</li> <li>9. レクリエーション発表（乳児）①</li> <li>10. レクリエーション発表（乳児）②</li> <li>11. 教材を使ったレクリエーション発表（乳児）③</li> <li>12. レクリエーション発表（幼児）④</li> <li>13. レクリエーション発表（幼児）⑤</li> <li>14. 教材を使ったレクリエーション発表（幼児）⑥</li> <li>15. まとめ</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>16. レクリエーション支援の理論</li> <li>17. レクリエーション体験（児童）</li> <li>18. レクリエーション体験（児童）</li> <li>19. 教材を使ったレクリエーション体験（児童）</li> <li>20. 教材を使ったレクリエーション体験（児童）</li> <li>21. 教材を使ったレクリエーション体験（児童）</li> <li>22. レクリエーション支援の方法</li> <li>23. レクリエーション発表（児童）①</li> <li>24. レクリエーション発表（児童）②</li> <li>25. レクリエーション発表（児童）③</li> <li>26. 教材を使ったレクリエーション発表（児童）④</li> <li>27. 教材を使ったレクリエーション発表（児童）⑤</li> <li>28. 教材を使ったレクリエーション発表（児童）⑥</li> <li>29. レクリエーション発表の評価と振り返り</li> <li>30. 全体のまとめ</li> </ul> </td> </tr> </table>				<b>内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. レクリエーションの意義と目的</li> <li>2. レクリエーション体験（乳児）</li> <li>3. レクリエーション体験（幼児）</li> <li>4. レクリエーション体験（幼児）</li> <li>5. 教材を使ったレクリエーション体験（乳児）</li> <li>6. 教材を使ったレクリエーション体験（幼児）</li> <li>7. 教材を使ったレクリエーション体験（幼児）</li> <li>8. 楽しさと心の元気づくりの理論</li> <li>9. レクリエーション発表（乳児）①</li> <li>10. レクリエーション発表（乳児）②</li> <li>11. 教材を使ったレクリエーション発表（乳児）③</li> <li>12. レクリエーション発表（幼児）④</li> <li>13. レクリエーション発表（幼児）⑤</li> <li>14. 教材を使ったレクリエーション発表（幼児）⑥</li> <li>15. まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>16. レクリエーション支援の理論</li> <li>17. レクリエーション体験（児童）</li> <li>18. レクリエーション体験（児童）</li> <li>19. 教材を使ったレクリエーション体験（児童）</li> <li>20. 教材を使ったレクリエーション体験（児童）</li> <li>21. 教材を使ったレクリエーション体験（児童）</li> <li>22. レクリエーション支援の方法</li> <li>23. レクリエーション発表（児童）①</li> <li>24. レクリエーション発表（児童）②</li> <li>25. レクリエーション発表（児童）③</li> <li>26. 教材を使ったレクリエーション発表（児童）④</li> <li>27. 教材を使ったレクリエーション発表（児童）⑤</li> <li>28. 教材を使ったレクリエーション発表（児童）⑥</li> <li>29. レクリエーション発表の評価と振り返り</li> <li>30. 全体のまとめ</li> </ul>
<b>内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. レクリエーションの意義と目的</li> <li>2. レクリエーション体験（乳児）</li> <li>3. レクリエーション体験（幼児）</li> <li>4. レクリエーション体験（幼児）</li> <li>5. 教材を使ったレクリエーション体験（乳児）</li> <li>6. 教材を使ったレクリエーション体験（幼児）</li> <li>7. 教材を使ったレクリエーション体験（幼児）</li> <li>8. 楽しさと心の元気づくりの理論</li> <li>9. レクリエーション発表（乳児）①</li> <li>10. レクリエーション発表（乳児）②</li> <li>11. 教材を使ったレクリエーション発表（乳児）③</li> <li>12. レクリエーション発表（幼児）④</li> <li>13. レクリエーション発表（幼児）⑤</li> <li>14. 教材を使ったレクリエーション発表（幼児）⑥</li> <li>15. まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>16. レクリエーション支援の理論</li> <li>17. レクリエーション体験（児童）</li> <li>18. レクリエーション体験（児童）</li> <li>19. 教材を使ったレクリエーション体験（児童）</li> <li>20. 教材を使ったレクリエーション体験（児童）</li> <li>21. 教材を使ったレクリエーション体験（児童）</li> <li>22. レクリエーション支援の方法</li> <li>23. レクリエーション発表（児童）①</li> <li>24. レクリエーション発表（児童）②</li> <li>25. レクリエーション発表（児童）③</li> <li>26. 教材を使ったレクリエーション発表（児童）④</li> <li>27. 教材を使ったレクリエーション発表（児童）⑤</li> <li>28. 教材を使ったレクリエーション発表（児童）⑥</li> <li>29. レクリエーション発表の評価と振り返り</li> <li>30. 全体のまとめ</li> </ul>				
<b>教科書 「楽しさを通した心の元気づくり」 —レクリエーション支援の理論と方法—</b> (日本レクリエーション協会)					
<b>授業の形態</b> 演習 <b>／方法</b> ／教科書で理論を学習し、演習はプリントを配布し、実践演習を行う。					
<b>評価方法</b> 筆記試験 50%、実技試験と授業参加度（態度等） 50%で、総合的に評価する。					
<b>その他の事項</b>					

授業科目名	保育実習指導 I	講師名	板谷雅子・小川夕也
実施年次 ／時期	1 年次 通年	時間数	60 時間
<b>概要</b> 保育実習は「理論」と「実践」を結ぶ大切な機会であり、それぞれの実習において明確な課題を持って臨む必要があります。本授業ではなぜ実習が必要であるかを正しく理解し、准職員として実習を行う上で必要となる知識・技術の習得を目指します。また、自身の実習を振り返り、保育士の専門性についての理解を深めていきましょう。			
<b>目標</b>			
1. 保育実習の意義・目的を理解できる 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にことができる 3. 実習施設における子どもの人権および守秘義務について理解できる 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解することができる 5. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、今後の実習に向けた課題や目標を明確にすることができます			
<b>内容</b>			
1. ガイダンス 必要書類の作成① 2. 実習の意義と目的 必要書類の作成② 3. 子どもの理解①（0～2歳） 4. 子どもの理解②（3歳～就学前） 5. 子どもの実際①（1日の生活の流れ） 6. 子どもの実際②（友だちや保育者とのかかわり） 7. 特別な支援が必要な子どもの保育 8. 子どもの人権、守秘義務の理解 9. 施設実習の目的 10. 児童福祉施設の理解 11. 障害者支援施設の理解 12. 保育実践 基礎編①（制作遊び） 13. 保育実践 基礎編②（季節の遊び） 14. 保育実践 基礎編③（ことば・集団遊び） 15. 前半まとめ 16. 保育実践 応用編①（制作遊び） 17. 保育実践 応用編②（季節の遊び） 18. 保育実践 応用編③（ことば・集団遊び） 19. 保育実践 応用編④（リズム遊び） 20. 保育実践 振り返り 21. 実習オリエンテーションについて 22. 実習課題を考える（前レポート） 23. 実習記録の書き方（実習記録の取り扱い） 24. 実習記録の書き方（日々のねらい） 25. 実習記録の書き方（1日の生活の流れ） 26. 実習指導案の書き方（ねらいと内容） 27. 実習指導案の書き方（0～2歳児保育） 28. 実習指導案の書き方（3～5歳児保育） 29. 実習注意事項 30. 後半まとめ			
<b>教科書</b> 『新基本保育シリーズ 保育実習』児童育成協会 監修（中央法規） 『保育指導案大百科事典』開仁志（一藝社） 『実習手引書』児童福祉科（南海福祉看護専門学校）			
<b>授業の形態</b> 演習			
<b>／方法</b> ／教科書および配布プリントによる講義、実習に向けた遊びの実践などを行います。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 80%、授業への参加度 20%で総合的に評価します。			
<b>その他の事項</b> 実習に関する諸手続きは締め切りを厳守すること。			

授業科目名	基礎教養講座	講師名	前田雄一・北村博文
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	60 時間
<b>概要</b> 社会生活を営む上で必要となる知識および福祉従事者として求められる資質は多様であり、一朝一夕で身につくものではありません。本授業では今後社会で求められる基礎的な教養を学び、一社会人としてふさわしい保育士の育成を図ります。			
<b>目標</b>			
1. 専門学生として求められる基礎的な文章構成・計算などができる 2. 社会人として求められる接遇・マナーや正しい言葉遣いができる			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション 2. 求人票の読み方 3. 履歴書の書き方 4. 電話のかけ方・一般教養(敬語) 5. 一般教養(漢字) 6. 一般教養(掃除の基本) 7. 一般教養(模擬選挙) 8. 一般教養(模擬選挙) 9. 一般教養(日本地理) 10. 一般教養(日本地理) 11. 一般教養(四則計算) 12. 一般教養(割合を用いた計算) 13. 振り返り学習 14. 振り返り学習 15. まとめ			16. ハラスメント防止教育 17. 防災学習 18. ディベート 19. 一般教養(速度算・濃度算) 20. 一般教養(速度算・濃度算) 21. 一般教養(漢字) 22. 論理力テスト 23. 一般教養(方程式) 24. 一般教養(方程式) 25. 一般教養(世界地理) 26. 一般教養(数学単位) 27. ディベート 28. 振り返り学習 29. 振り返り学習 30. まとめ
<b>教科書</b> テキストは使用しません。随時プリントを配布します。			
<b>授業の形態</b> 演習			
<b>／方法</b> ／プリントを用いた学習に加え、就職試験、就職に向けての実践演習を行います。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 80%、授業参加度(授業態度等) 20%で総合的に評価します。			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	保育者論	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30 時間
<b>概要</b> 本授業では、保育者の倫理観に裏付けされた役割や、制度的な位置づけ、歴史的背景などについて学び、子どもの保育と保護者支援を行う保育者の専門性について理解を深めることを目的とする。また、「成長し続ける保育者」をキーワードとし、各自が理想とする保育者像に近づくために、何が必要か、を問い合わせ続ける姿勢を大切にしていきたい。			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者の役割と倫理について理解できる</li> <li>2. 保育者の制度的な位置づけを理解できる</li> <li>3. 保育者の専門性について理解できる</li> <li>4. 保育者の連携・協働について理解できる</li> <li>5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解できる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者とは① 保育者の一日</li> <li>2. 保育者とは② 保育者の制度的位置づけ</li> <li>3. 保育職とは① 保育者としての資質</li> <li>4. 保育職とは② 保育者としての倫理</li> <li>5. 現代の保育にまつわる問題① 子どもを取り巻く環境の変化と現状</li> <li>6. 現代の保育にまつわる問題② 配慮を要する子どもへの理解と対応</li> <li>7. 保育者の役割① 保育者の職務内容</li> <li>8. 保育者の役割② 初任者・中堅者・管理職の役割</li> <li>9. 保育者の専門性① 保育者に求められる資質・能力とは</li> <li>10. 保育者の専門性② 保育の実践の向上</li> <li>11. 保育者の専門性③ 保育の安全管理と危機管理</li> <li>12. 保育者の連携・協働① 保護者・家庭とのかかわり</li> <li>13. 保育者の連携・協働② 関連機関や地域との連携</li> <li>14. 保育者の資質向上とキャリア形成</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
教科書	『保育者論 ～子どものかたわらに』 小川圭子 編 (みらい)		
授業の形態	講義		
／方法	／教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。		
評価方法	筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。		
その他の事項	幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	子ども家庭支援の心理学	講師名	前田雄一
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30時間
<p><b>概要</b> 子どもおよび子育て家庭の支援について理解する科目です。子どもの支援に関しては、生涯発達に関する心理学の基礎知識や子どもの精神保健について学びます。子育て家庭の支援については、家族・家庭の意義・機能を理解した上で、子育て家庭をめぐる社会的状況と課題に触れます。それぞれの理解や支援を通して、子どもの発達における初期経験の重要性や、最も子どもに近い環境である家族・家庭への支援の必要性を検討します。</p>			
<p><b>目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解することができる</li> <li>家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得できる</li> <li>子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について検討できる</li> <li>子どもの精神保健とその課題について検討できる</li> </ol>			
<p><b>内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>乳幼児から学童期前期にかけての発達</li> <li>学童期後期から青年期にかけての発達</li> <li>成人期・老年期における発達</li> <li>家族・家庭の意義と機能</li> <li>親子関係・家族関係の理解</li> <li>子育ての経験と親としての育ち</li> <li>子育てを取り巻く社会的状況</li> <li>ライフコースと仕事・子育て</li> <li>多様な家族とその理解</li> <li>特別な配慮を要する家庭</li> <li>子どもの生活・生育環境とその影響</li> <li>子どものこころの健康に関わる問題</li> <li>保育士と子ども家庭支援</li> <li>総括</li> </ol>			
<p><b>教科書</b> プリントを配布します</p> <p>シリーズ保育と現代社会 保育と家庭支援(編集:上田衛 みらい 2018)</p> <p>シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学(青木紀久代編 みらい 2019)などを勧めます</p>			
<p><b>授業の形態</b> 講義・演習</p>			
<p><b>ノ法</b> /講義はプリントを用います。演習はグループワークなどを行います</p>			
<p><b>評価方法</b> 平常点(40%)・期末試験(60%)</p>			
<p><b>その他の事項</b></p>			

授業科目名	子どもの食と栄養	講師名	大杉 加菜子																														
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	60時間																														
<b>概要</b> 本科目では、栄養や食に関する基礎知識を学び、子どもの健康と食生活のつながり、子どもの発育・発達期別栄養の特徴を理解する。また家庭や児童福祉施設における食事と栄養の意義という視点を持ち、食育や特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学習する。																																	
<b>目標</b>																																	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康的な食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できる</li> <li>2. 子どもの発育・発達期別栄養の特徴を理解できる</li> <li>3. 食育の基本と内容を理解できる</li> <li>4. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養の現状と課題について理解できる</li> <li>5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解できる</li> </ol>																																	
<b>内容</b>																																	
<table border="0"> <tr> <td>1. 栄養学とは</td> <td>1 6. 妊娠期の栄養</td> </tr> <tr> <td>2. 炭水化物</td> <td>1 7. 授乳期の栄養</td> </tr> <tr> <td>3. 脂質</td> <td>1 8. 新生児期の栄養</td> </tr> <tr> <td>4. たんぱく質</td> <td>1 9. 乳児期の栄養</td> </tr> <tr> <td>5. ビタミン（脂溶性）</td> <td>2 0. 離乳期の栄養</td> </tr> <tr> <td>6. ビタミン（水溶性）</td> <td>2 1. 幼児期の栄養</td> </tr> <tr> <td>7. 無機質（マクロ）</td> <td>2 2. 学童期の栄養</td> </tr> <tr> <td>8. 無機質（ミクロ）</td> <td>2 3. 食育の基本</td> </tr> <tr> <td>9. 水について</td> <td>2 4. 食育の計画・活用</td> </tr> <tr> <td>1 0. 食事摂取基準</td> <td>2 5. 食物アレルギーとは</td> </tr> <tr> <td>1 1. 栄養生理（消化のしくみ）</td> <td>2 6. 食物アレルギーへの対応</td> </tr> <tr> <td>1 2. 栄養生理（吸収のしくみ）</td> <td>2 7. 児童福祉施設給食</td> </tr> <tr> <td>1 3. 栄養生理（食欲と味覚）</td> <td>2 8. 和食</td> </tr> <tr> <td>1 4. 献立作成・衛生管理</td> <td>2 9. 行事食・郷土料理</td> </tr> <tr> <td>1 5. まとめ</td> <td>3 0. まとめ</td> </tr> </table>				1. 栄養学とは	1 6. 妊娠期の栄養	2. 炭水化物	1 7. 授乳期の栄養	3. 脂質	1 8. 新生児期の栄養	4. たんぱく質	1 9. 乳児期の栄養	5. ビタミン（脂溶性）	2 0. 離乳期の栄養	6. ビタミン（水溶性）	2 1. 幼児期の栄養	7. 無機質（マクロ）	2 2. 学童期の栄養	8. 無機質（ミクロ）	2 3. 食育の基本	9. 水について	2 4. 食育の計画・活用	1 0. 食事摂取基準	2 5. 食物アレルギーとは	1 1. 栄養生理（消化のしくみ）	2 6. 食物アレルギーへの対応	1 2. 栄養生理（吸収のしくみ）	2 7. 児童福祉施設給食	1 3. 栄養生理（食欲と味覚）	2 8. 和食	1 4. 献立作成・衛生管理	2 9. 行事食・郷土料理	1 5. まとめ	3 0. まとめ
1. 栄養学とは	1 6. 妊娠期の栄養																																
2. 炭水化物	1 7. 授乳期の栄養																																
3. 脂質	1 8. 新生児期の栄養																																
4. たんぱく質	1 9. 乳児期の栄養																																
5. ビタミン（脂溶性）	2 0. 離乳期の栄養																																
6. ビタミン（水溶性）	2 1. 幼児期の栄養																																
7. 無機質（マクロ）	2 2. 学童期の栄養																																
8. 無機質（ミクロ）	2 3. 食育の基本																																
9. 水について	2 4. 食育の計画・活用																																
1 0. 食事摂取基準	2 5. 食物アレルギーとは																																
1 1. 栄養生理（消化のしくみ）	2 6. 食物アレルギーへの対応																																
1 2. 栄養生理（吸収のしくみ）	2 7. 児童福祉施設給食																																
1 3. 栄養生理（食欲と味覚）	2 8. 和食																																
1 4. 献立作成・衛生管理	2 9. 行事食・郷土料理																																
1 5. まとめ	3 0. まとめ																																
<b>教科書</b> 「子育て・子育ちを支援する 子どもの食と栄養」 堤ちはる、土井正子 編著（萌文書林）																																	
<b>授業の形態</b> 演習																																	
<b>／方法</b> ／基礎を学んだのち、模擬事例等で展開する																																	
<b>評価方法</b> 筆記試験 60%、平常点 40% で総合的に判断する																																	
<b>その他の事項</b>																																	

授業科目名	カウンセリング（選択）	講師名	前田雄一
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30時間
<b>概要</b>			
大きな災害や事件が起こるたび、カウンセリングやカウンセラーは注目されるようになってきました。ですが、こころの健康を考える上では、大きな問題が起こってからカウンセラーに相談するのではなく、大きな問題が起こる前に周囲の人たちと相互に「助ける・助けられる」の関係を結びながら、事前に対応し予防することが大切であると考えられるようになってきました。			
この授業では、カウンセリングの理論や技法を学びながら、日常的な問題解決（ピアヘルピング）のスキルを磨いていきます。			
<b>目標</b>			
1. カウンセリングの理論や技法を学び、その実践をすることによって、問題の予防や解決についての効果的な方法やスキルを身につけられる。 2. グループワークでのふれあい経験やカウンセリング技法のトレーニングを通して、自己や他者について理解できる。			
<b>内容</b>			
1. カウンセリングとピアヘルピング 2. 自己理論（PCA）と精神分析理論 3. 行動療法と論理療法 4. その他の理論 5. カウンセリングマインドとスキル 6. カウンセリングの言語的技法（1） 7. カウンセリングの言語的技法（2） 8. カウンセリングと語彙力 9. カウンセリングの非言語的特徴 10. 構成的グループエンカウンター（SGE） 11. SGE の実践 12. 青年期の 6 課題 13. 青年期の 6 課題 14. キャリア理論とピアヘルピング 15. 総括			
教科書	プリントを配布するほか、以下の教科書を用いる 『ピアヘルパーハンドブック』（日本教育カウンセラー協会編 図書文化 2016） 『ピアヘルパーウークブック』（日本教育カウンセラー協会編 図書文化 2016）		
授業の形態	講義・演習		
ノ法	ノ法 ノ講義はプリントを用いる。演習はグループワークなどを行う。		
評価方法	平常点（40%）・期末試験（60%）		
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	保育の計画と評価	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30 時間
<b>概要</b> 本授業は、乳幼児期の保育を実践する上で、必要不可欠となる計画についての基礎となる理論を学び、保育の計画の作成を通して、保育を見通す力を養うことを目的とする。また、保育計画の意義について理解を深め、「何のため」「誰のため」の計画であるかを学ぶ。			
<b>目標</b>			
1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解できる 2. 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解することができる 3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造を捉え理解できる			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション 授業のねらいと概要 2. 保育における計画の意義 3. 日本におけるカリキュラムの基礎理論 4. 子ども理解に基づく保育の循環 5. 保育所保育指針、幼稚園教育要領の性格と位置づけ 6. 教育課程の編成の基本原理と方法 7. 全体的な計画の作成の基本原理と方法 8. 指導計画の基本① 幼稚園 9. 指導計画の基本② 保育所・認定こども園 10. 保育の評価 11. 指導計画の実際① 作成の基本 12. 指導計画の実際② 0歳児の指導計画 13. 指導計画の実際③ 1歳以上3歳未満児の指導計画 14. 指導計画の実際④ 3歳以上児の指導計画 15. まとめ			
<b>教科書</b> 『新基本保育シリーズ⑬ 教育・保育カリキュラム論』千葉武夫 那須信樹 編 (中央法規)			
<b>授業の形態</b> 講義			
<b>／方法</b> ／教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。			
<b>その他の事項</b> 幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	保育内容総論	講師名	木下孝一	
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間	
<b>概要</b> 幼稚園や保育所における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助や指導について保育の流れを概観し、保育実践と結び付けながら学ぶことを目的とする。				
<b>目標</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解できる</li> <li>2. 養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解できる</li> <li>3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を理解できる</li> <li>4. 保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解できる</li> <li>5. 保育の多様な展開について具体的に理解できる</li> </ol>				
<b>内容</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の全体構造と保育内容</li> <li>2. 保育所保育指針に基づく保育内容の理解① 養護</li> <li>3. 保育所保育指針に基づく保育内容の理解② 教育</li> <li>4. 保育内容の歴史的変遷とその社会的背景</li> <li>5. 子どもの発達や生活に即した保育内容とは</li> <li>6. 保育内容の展開① 養護と教育が一体的に展開される保育</li> <li>7. 保育内容の展開② 子どもの主体性を尊重する保育</li> <li>8. 保育内容の展開③ 環境を通して行う教育</li> <li>9. 保育内容の展開④ 生活や遊びによる総合的な保育</li> <li>10. 保育内容の展開⑤ 個と集団の発達をふまえた保育</li> <li>11. 保育内容の展開⑥ 家庭や地域等の連携をふまえた保育</li> <li>12. 保育内容の展開⑦ 小学校との連携・接続をふまえた保育</li> <li>13. 保育の多様な展開① 特別な配慮を要する子どもの保育</li> <li>14. 保育の多様な展開② 多文化共生の保育</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
教科書	『新基本保育シリーズ⑭ 保育内容総論』石川昭義 松川恵子 編 (中央法規)			
授業の形態	演習			
／方法	／教科書や資料を使用し、グループワークやロールプレイングを中心に授業を進める。			
評価方法	筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。			
その他の事項	幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	子どもの健康と安全	講師名	小橋 美栄子
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30時間
<b>概要</b>			
子どもの個人ならびに集団に対して、その健康と安全を守るために必要な基礎知識と基本技術を学ぶ ＊1年次の『子どもの保健』の学びをフィードバックしながら理解を深め応用できるようにする			
<b>目標</b>			
1. 保健的な観点を踏まえて、環境整備・個人及び集団への対応・衛生管理・安全対策が理解できる 2. 日常的な健康障害の対応、応急処置・感染症の予防と対応について理解し対応できる 3. 保育に必要な保健的対応の基本及び3歳未満児の理解とその対応ができる 4. 個別的な配慮を必要とする児・障害のある子どもの対応方法を理解できる 5. 健康及び安全の管理体制（保育計画と評価・組織間の取り組み・家族や関係機関との連携ならびに社会資源の活用）を理解し、事例を通して管理体制の実際を理解できる 6. 保育計画の一部である保健だよりを目的・時期・対象のニーズを考えた上で、実用できるよう作成できる			
<b>内容</b>			
1. 子どもの健康と保育環境、保健に関する個別対応と集団の健康（個人演習課題） 2. 卫生管理・事故防止及び安全対策・災害への備えと危機管理 3. G・Wによる演習（衛生教育の実際・子どもの事故と保育環境の整備） 4. 子どもの体調不良や傷害が発生した場合の対応・救急処置及び救急蘇生法（デモスト） 5. 感染症の集団発生とその予防・対応 6. 体調不良時・火傷・骨折・誤嚥・消毒方法・感染予防の衛生教育（講義・個人レポート・演習） 7. 保育における保健的対応の基本（安全な援助と衛生習慣の形成） 8. 3歳未満児への対応（講義・デモスト） 9. 乳児の抱き方・沐浴、幼児の生活習慣形成のための教育（講義・デモスト・演習） 10. 個別的対応を必要とする子どもへの対応・障害のある子どもへの適切な対応（演習課題；薬物管理） 11. 職員間の連携・協働と組織的取り組み、保育における保健計画及び評価 12. 子どもを中心とした家族・専門機関・地域との連携と社会資源の活用 13. 事例を通して保育環境の整備、職員間の協働・家族・専門機関・地域との連携を考える（演習） 14. 13回目の事例のまとめ 15. 保健だよりの作成（個人レポート）			
<b>教科書</b>			
「子どもの健康と安全」監修 公益財団法人 児童育成協会（中央法規）			
<b>授業の形態</b> 講義・デモスト・演習			
<b>／方法</b> /			
<b>評価方法</b>			
レポート 50% 筆記試験 50% により評価			
<b>その他の事項</b> 看護師として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	障害児保育	講師名	原 悅子・北村博文
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	60 時間
<b>概要</b> 障がい児保育を支える理念と、障がいの理解と保育における発達の援助を学ぶ。保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価について理解し、家庭及び関係機関との連携においても、保護者や家族に対する理解と支援方法を学ぶ。また、障がいのある子どもの保育にかかる現状と課題についても理解する。			
<b>目標</b>			
1. 様々な障がいについて理解でき、子ども理解や支援の方法について模索・探究できる。 2. 障がいのある子どもの保育計画・保育実践について理解を深めることができる。 3. 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について、理解を深めることができる。 4. 障がい児保育に関わる保健・医療・福祉・教育等の状況と課題を検討できる。			
<b>内容</b>			
1. 障がいの概要と対象 2. 障がいを体験する 3. 障がい児保育の変容 4. 現在の障がい児保育 5. 障害者支援の基本概念 6. 視覚障がいの理解 7. 聴覚障がいの理解 8. 構音障害の理解 9. 肢体不自由児の理解 10. 知的障がい児の理解 11. 発達障がい児（ADHD・LD）の理解 12. 発達障がい児（自閉症スペクトラム）の理解 13. 障がい児の特性に応じた対応① 14. 障がい児の特性に応じた対応② 15. まとめ			16. 障がいのある子どもの発達と環境 17. 統合保育・分離保育のメリット・デメリット 18. 保育所・幼稚園等と専門施設の違い 19. 保育課程に基づく指導計画の作成 20. 個別の支援計画 21. 個別支援計画の取り組みと課題 22. 保護者や家庭に対する支援の必要性 23. 保護者や家庭に対する支援の方法 24. 地域の専門機関との連携の必要性 25. 地域の専門機関との連携の方法 26. 小学校との連携 27. 就学支援の実際 28. 障がいに対する理念の変化 29. 障がい児を取り巻く制度の変化 30. まとめ
<b>教科書</b> 「障害児保育」中央法規出版 監修：児童育成協会 編集：西村重稀・水田敏郎			
<b>授業の形態</b> 講義・演習			
<b>／方法</b> ／講義も演習も、教科書を使用する。（教科書内に演習問題が多数ある）			
<b>評価方法</b> 筆記試験 90 %、授業参加度（態度等） 10 %で総合的に評価する。			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	社会的養護Ⅱ	講師名	原 悅子
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30時間
<b>概要</b>			
本科目では、社会的養護方法（実践）など基本的な内容について理解し、さらにそれらを演習によって深める。また、社会的養護におけるソーシャルワークや社会資源の活用を学び、保育士に必要な知識、技術、実践について理解を深める。			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども理解に基づく社会的養護について理解することができる</li> <li>2. 社会的養護における計画・記録・自己評価について理解することができる</li> <li>3. 社会的養護の実際について理解することができる</li> <li>4. 虐待の防止と家庭支援について理解することができる</li> <li>5. 保育士の専門性にかかる知識・技術とその実践について理解することができる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの権利擁護</li> <li>2. 社会的養護における子どもの理解</li> <li>3. 社会的養護の内容① 日常生活支援</li> <li>4. 社会的養護の内容② 心理的支援</li> <li>5. 社会的養護の内容③ 自立支援</li> <li>6. 施設養護の生活特性および実際① 乳児院等</li> <li>7. 施設養護の生活特性および実際② 障害児施設等</li> <li>8. 家庭養護の生活特性および実際</li> <li>9. アセスメントと個別支援計画の作成</li> <li>10. 記録および自己評価</li> <li>11. 社会的養護における保育の専門性にかかる知識・技術とその実践</li> <li>12. 社会的養護にかかる相談援助の知識・技術とその実践</li> <li>13. 社会的養護におけるソーシャルワーク</li> <li>14. 社会的養護における家庭支援</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b>			
『新 基本保育シリーズ 18 社会的養護Ⅱ』(中央法規)			
<b>授業の形態</b> 演習			
<b>／方法</b> ／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用する。 演習はグループワークなどを行います。			
<b>評価方法</b>			
筆記試験 50%、授業時に行うレポート・課題への対応・発表業況など 50%			
<b>その他の事項</b> 社会福祉士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	子育て支援	講師名	北村博文
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30 時間
<b>概要</b> 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の掲示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。また、保育士の行う子育て支援についてさまざまな場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。			
<b>目標</b>			
1. 子育て支援の意義と目的の理解ができる 2. 効果的な子育て支援の進め方の理解ができる 3. 児童問題における事例より子育て支援の技術を習得することができる			
<b>内容</b>			
1. 子育て支援の構造 2. 社会の変化と子育て家庭をめぐる問題 3. 子育て支援の実施体制 4. 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」等における子育て支援 5. 子育て支援におけるソーシャルワーク 6. ソーシャルワークの定義と原則 7. ソーシャルワークにおける面接技法 8. 環境を通した子育て支援 9. 送迎時における子育て支援 10. 個人面談、懇談会における子育て支援 11. 連絡ノート、園だより等を通した子育て支援 12. 園庭開放、体験保育、行事、保育参観等による子育て支援 13. 児童福祉施設における子育て支援 14. 子育て支援の課題と展望 15. まとめ			
<b>教科書</b> 「子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門」編著者：才村純・芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治			
<b>授業の形態</b> 演習			
<b>／方法</b> ／教科書を使用する。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 90%、小テストと授業参加度（態度など）10%で総合的に評価する。			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	表現Ⅱ	講師名	森崎良尚
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	60 時間
<b>概要</b>			
こども達の表現力を引き出すために、保育者自らが豊かな表現力を身に付けることが大切であることを再確認し「表現Ⅰ」の内容を更に深めます。また、こども達のお手本となるように、日常生活態度や立ち居振る舞いを見直し、プロ意識を高め就職準備を進めます。			
最終目標は、クラスメイト同士が「お互いを保育者として認め合える」です。楽しく苦労しましょう。			
授業内容や順序は、皆さんの様子や到達状況を見て調整する場合があります。			
<b>目標</b>			
1. 自分自身の表現力を見直し、得意な部分を更に伸ばすことができる 2. 自分自身の表現力を見直し、苦手な部分を克服することができる 3. 「こども達の表現力を引き出す」を意識した言動を考え、模擬設定保育が実践できる			
<b>内容</b>			
1. 「表現Ⅰ」の振り返り 2. 教育実習準備（「たなばたさま」うた・ピアノ） 3. 教育実習準備（「たなばたさま」歌唱指導） 4. 教育実習準備（「たなばたさま」設定保育） 5. 話し方・聞き方（就職模擬面接） 6. 話し方・聞き方（討論） 7. 話し方・聞き方（議論） 8. 空気で遊ぼう・パントマイム 9. ジェスチャーゲーム・人間オブジェ 10. ジェスチャーしりとり・1枚の写真 11. 間違って覚えている童謡（どんぐりころころ・ゆき） 12. 「どんぐりころころ」1番の素話 13. 「どんぐりころころ」2番 歌唱 14. 「どんぐりころころ」3番 歌詞創作と振付 15. 「どんぐりころころ」発表会 16. 模擬設定保育（誕生日会） 17. ※保育園・幼稚園・こども園・障害児施設 18. 児童養護施設から対象を選び「誕生日会 19. で大切にしたいこと」をテーマにグル 20. プ内で保育者役と子ども役を決め実施 21. 絵本と効果音① 22. 絵本と効果音② 23. ストーリー性のある身体表現① 24. ストーリー性のある身体表現② 25. こどもの表現力を引き出す手がかり・卒業課題 26. 指導者の表現力を磨き続ける手がかり・卒業課題 27. 指導者の表現力と子どもの表現力の関係性・卒業課題 28. 表現Ⅰ・Ⅱを通して自分の表現力を振り返る・卒業課題 29. あなたが保育者として望む子どもの表現力・卒業課題 30. 卒業課題 発表会			
<b>教科書</b> 適宜資料配布			
<b>授業の形態</b> 演習			
／方法 ／授業前半：毎回一人で前に出て、与えられた課題にチャレンジする。 授業後半：グループワークなどで表現活動を行い保育方法を学ぶ。			
<b>評価方法</b> 毎時間の実技試験と期末実技試験			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	身体表現	講師名	相奈良 律
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30 時間
<b>概要</b> 身体表現活動の実践を通して、子どもの発達と表現活動について理解を深める。また、子どもの発達段階に応じた身体表現の実践を通して、動きを引き出す指導方法および的確な保育者の援助について理解を深める。			
<b>目標</b> 実践的な身体表現活動を通して、子どもの発達段階に応じた身体表現活動の題材や指導方法について学習し、保育者として指導方法および援助について理解を深める。			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション、「身体表現」とは 2. 模倣と身体表現 3. 手遊びやわらべ歌を用いた身体表現 4. 個と集団の身体表現①（ゲームや鬼ごっこを通してコミュニケーションをはかる身体表現） 5. 個と集団の身体表現②（即興やリズム遊びを通してコミュニケーションを深める身体表現） 6. 身近な素材を用いた身体表現 7. 季節や行事に合った遊びやダンス① 8. 季節や行事に合った遊びやダンス② 9. 幼児体操・キッズダンス 10. ダンス創作・発表 11. パラバルーン 12. 模擬保育に向けた指導内容の検討（指導案） 13. 模擬保育（発表準備） 14. 模擬保育実践・ふりかえり 15. 模擬保育実践・ふりかえり			
<b>教科書</b> 使用しない 必要に応じて適宜、資料を配布する			
<b>授業の形態</b> 演習 <b>／方法</b> ／模擬保育では、テーマに即して創作した表現運動を発表する 毎時、講義ノートに感想や気づきを記録する			
<b>評価方法</b> 出席・受講態度（授業内の取り組みと発表）50%、指導案 10%、模擬保育実践 40%			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	音楽表現Ⅱ	講師名	森崎 他				
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	60 時間				
<b>概要</b>							
音楽表現Ⅰで習得した演奏技術を更に深めレパートリーを増やすとともに、卒業後の学習に向けての練習方法を身に付ける。 中級者・上級者に対しては、教則本なども積極的に取り入れ就職採用試験に備える。また、さまざまなジャンルにも挑戦し音楽性を深める。							
<b>目標</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期、採用試験対応として、ピアノ弾き歌い曲2曲とピアノ曲1曲を完成できる</li> <li>2. 音楽表現Ⅰ合格曲の反復とともに、レパートリーを増やすことができる</li> <li>3. 様々なジャンルやアレンジに挑戦できる</li> </ol>							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;"><b>内容</b></td> <td style="padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">           1. クラス分け・オリエンテーション            2. ※担当教員と進路面談を行い、進路に沿ったレッスンスケジュールを立てる。            3. 保育園・幼稚園・こども園以外に就職を希望する者に対しては、施設の行事などを意識して選曲する。            4. また、教育実習での課題曲も練習する。            5.            6.            7.            8.            9.            10.            11.            12.            13.            14.            15. 前期のまとめとして発表会を実施         </td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">           16. ※レパートリーを増やすとともに、就職採用試験用の3曲を仕上げる。            17. 立って弾く・喋りながら弾く・鍵盤を見ないで弾く等にも挑戦する。            18. また、後期試験に備えて、卒業課題の練習に取り組む。            19.            20.            21.            22.            23.            24.            25.            26.            27.            28.            29.            30. 後期のまとめとして発表会を         </td> </tr> </table>				<b>内容</b>		1. クラス分け・オリエンテーション 2. ※担当教員と進路面談を行い、進路に沿ったレッスンスケジュールを立てる。 3. 保育園・幼稚園・こども園以外に就職を希望する者に対しては、施設の行事などを意識して選曲する。 4. また、教育実習での課題曲も練習する。 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 前期のまとめとして発表会を実施	16. ※レパートリーを増やすとともに、就職採用試験用の3曲を仕上げる。 17. 立って弾く・喋りながら弾く・鍵盤を見ないで弾く等にも挑戦する。 18. また、後期試験に備えて、卒業課題の練習に取り組む。 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 後期のまとめとして発表会を
<b>内容</b>							
1. クラス分け・オリエンテーション 2. ※担当教員と進路面談を行い、進路に沿ったレッスンスケジュールを立てる。 3. 保育園・幼稚園・こども園以外に就職を希望する者に対しては、施設の行事などを意識して選曲する。 4. また、教育実習での課題曲も練習する。 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 前期のまとめとして発表会を実施	16. ※レパートリーを増やすとともに、就職採用試験用の3曲を仕上げる。 17. 立って弾く・喋りながら弾く・鍵盤を見ないで弾く等にも挑戦する。 18. また、後期試験に備えて、卒業課題の練習に取り組む。 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 後期のまとめとして発表会を						
<b>教科書</b>							
保育のうた・こどものうた 120							
<b>授業の形態</b> 演習							
／方法 ／5～6名のグループに分かれての個人レッスンとグループレッスン							
<b>評価方法</b> 授業中に合格した曲数と実技試験。							
<b>その他の事項</b>							

授業科目名	保育実習指導II	講師名	木下孝一・小川夕也
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30時間
<b>概要</b> 本授業は、保育実習の意義と目的を理解し、実習の計画、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、保育所・施設実習IIの準備に必要な知識と実践について総合的に学ぶことを目的とする			
<b>目標</b>			
1. 保育所実習、施設実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解できる 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を身に付けることができる 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解できる 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解できる			
<b>内容</b>			
1. ガイダンス 選択実習について 2. 実習の手続きについて①（実習生カード、個人調査票等） 3. 実習記録について① 実習記録の活用及び記録の取り方 4. 実習記録について② 実習記録作成のポイント 5. 指導案・支援計画書の書き方のポイント 6. 指導案・支援計画書の作成 7. 実習前レポートの作成 8. 保育所実習 ①実習の学びと課題設定 / 施設実習 ①実習の学びと課題設定 9. 保育所実習 ②模擬保育と指導案の書き方（制作遊び） / 施設実習 ②食事・排せつに関する支援 10. 保育所実習 ③模擬保育と指導案の書き方（季節の遊び） / 施設実習 ③衣類・身体の清潔に関する支援 11. 保育所実習 ④模擬保育と指導案の書き方（ことば・集団遊び） / 施設実習 ④コミュニケーションと自己表現 12. 保育所実習 ⑤模擬保育と指導案の書き方（リズム遊び） / 施設実習 ⑤社会規範とマナーに関する支援 13. 実習における注意事項① 実習に向けての基本的マナーと心構え 14. 実習における注意事項② 実習前後の手続きについて 15. まとめ			
<b>教科書</b> 『新基本保育シリーズ 保育実習』児童育成協会 監修（中央法規） 『保育指導案大百科事典』開 仁志 編（一藝社） 『実習手引書』児童福祉科 編（南海福祉看護専門学校）			
<b>授業の形態</b> 演習			
<b>／方法</b> ／教科書や資料を使用し、グループワークやロールプレイングを中心に授業を進める。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など） 50%で総合的に評価する。			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	保育実践演習	講師名	板谷雅子
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	60 時間
<b>概要</b> 教職の意義や保育者の役割や専門性など確認し、具体的な保育内容や子ども理解について学ぶ			
<b>目標</b> 1.これまで学んだ学習知と教育実習で得られた指導力や実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏付けされた確かな実践的指導力を身に付けることができる 2.幼稚園での実践を中心としながらも、幼稚園と小学校との連携と接続、保育所と幼稚園との連携などを意識し、教育現場や保育現場で直面する問題に対しての対応力を学ぶことができる			
<b>内容</b>			
1. 前期ガイダンス 2. 保育者の歩みと足跡①保育者とは 3. 保育者の歩みと足跡①保育者実践的力量 4. 園の安全管理 5. 子ども理解の方法と実践① 実践的理解 6. 子ども理解の方法と実践② 子ども理解と記録 7. 気になる子どもに行動の理解と対応① 保育現場の実際 8. 気になる子どもに行動の理解と対応② 必要な配慮 9. 教育課程・保育課題を考える①保育カリキュラム 10. 教育課程・保育課題を考える② PDCA サイクル 11. 保育内容と保育方法の研究① 保育内容と方法 12. 保育内容と保育方法の研究②指導計画・指導計画 13. 保育の振り返り 14. 保育者及び地域との協働性 15. まとめ			16. 後期ガイダンス 17. 実習の振り返り 実践記録を読み取る 18. プログラム作り運動会 19 プログラム作り 20. プログラム作り 21. 幼小保の接続 22 保育内容と保育実践の研究① 23. 保育内容と保育実践の研究② 24. 保育内容と保育実践の研究③ 25. 保育内容と保育実践の研究④ 26. 保育内容と保育実践の研究⑤ 27. 保育内容と保育実践の研究⑥ 28. 保育内容と保育実践の研究⑦ 29. 保育内容と保育実践の研究⑧ 30. まとめ
<b>教科書</b> 小櫃智子・矢藤誠慈郎 編「保育教職実践演習これまでの学びと保育者への歩み」わかば社 2018			
<b>授業の形態</b> 演習			
<b>／方法</b> ／教科書および配布プリントを中心とし、講師解説・概説を行う			
<b>評価方法</b> 筆記試験 50%、レポート 20%、授業の参加度 30%で総合的に評価します。			
<b>その他の事項</b> 幼稚園教諭として 5 年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	卒業研究	講師名	森崎良尚																
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30時間																
<b>概要</b>																			
保育・教育現場で必要なパフォーマンス能力を高める。ピアノ・歌・楽器・絵本・紙芝居・朗読・身体表現・ダンス・コント・芝居・ミュージカル・司会など、自分の得意分野を追求し磨くことにより、自信を持って人前に立てる魅力ある保育者を目指す。個人やグループで課題を設定し、練習・レッスンを重ねた後に、舞台発表により成果を披露する。また、舞台発表に向けての練習・レッスン・場当たり・舞台練習・通し練習・リハーサル（ゲネプロ）・本番など、園での生活発表会などの企画・運営を学ぶ。																			
<b>目標</b>																			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 選択した課題を、基本に忠実にミスなく表現できる。</li> <li>2. その上で個性を十分に出し、自分らしく表現できる。</li> <li>3. 観る人・聞く人を意識した表現(衣装・メイクを含む)ができる。</li> <li>4. 出演者全員のチームプレイであることを認識した立ち居振る舞いができる。</li> <li>5. される拍手・する拍手の意味を考えて実施することができる。</li> <li>6. 自己評価・他己(者)評価・多面評価を整理し、次のステップに繋ぐことができる。</li> </ol>																			
<b>内容</b>																			
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. オリエンテーション</td><td style="width: 50%;">9. 個人・グループに分かれた練習 レッスン</td></tr> <tr> <td>2. パフォーマンス設定 練習・レッスン</td><td>10. 舞台場当たり 練習・レッスン</td></tr> <tr> <td>3. パフォーマンス設定 練習・レッスン</td><td>11. 個人・グループに分かれた練習 レッスン</td></tr> <tr> <td>4. 個人・グループに分かれた練習 レッスン</td><td>12. 舞台通し練習 司会進行方法決定</td></tr> <tr> <td>5. 個人・グループに分かれた練習 レッスン</td><td>13. 舞台通し練習 最終プログラム決定</td></tr> <tr> <td>6. 個人・グループに分かれた練習 レッスン</td><td>14. 最終ダメ出し 確認練習・レッスン</td></tr> <tr> <td>7. 個人・グループに分かれた練習 レッスン（目標「1」到達予定）</td><td>15. まとめ 成果発表</td></tr> <tr> <td>8. パフォーマンス披露 多面評価 プログラム（案）決定</td><td></td></tr> </table>				1. オリエンテーション	9. 個人・グループに分かれた練習 レッスン	2. パフォーマンス設定 練習・レッスン	10. 舞台場当たり 練習・レッスン	3. パフォーマンス設定 練習・レッスン	11. 個人・グループに分かれた練習 レッスン	4. 個人・グループに分かれた練習 レッスン	12. 舞台通し練習 司会進行方法決定	5. 個人・グループに分かれた練習 レッスン	13. 舞台通し練習 最終プログラム決定	6. 個人・グループに分かれた練習 レッスン	14. 最終ダメ出し 確認練習・レッスン	7. 個人・グループに分かれた練習 レッスン（目標「1」到達予定）	15. まとめ 成果発表	8. パフォーマンス披露 多面評価 プログラム（案）決定	
1. オリエンテーション	9. 個人・グループに分かれた練習 レッスン																		
2. パフォーマンス設定 練習・レッスン	10. 舞台場当たり 練習・レッスン																		
3. パフォーマンス設定 練習・レッスン	11. 個人・グループに分かれた練習 レッスン																		
4. 個人・グループに分かれた練習 レッスン	12. 舞台通し練習 司会進行方法決定																		
5. 個人・グループに分かれた練習 レッスン	13. 舞台通し練習 最終プログラム決定																		
6. 個人・グループに分かれた練習 レッスン	14. 最終ダメ出し 確認練習・レッスン																		
7. 個人・グループに分かれた練習 レッスン（目標「1」到達予定）	15. まとめ 成果発表																		
8. パフォーマンス披露 多面評価 プログラム（案）決定																			
<b>教科書</b> なし：必要に応じて資料を配布する。																			
<b>授業の形態</b> 演習 方法：個別練習・レッスン・全体練習																			
<b>評価方法</b> 卒業研究（80%）及び 授業態度（20%）を総合して評価を行なう。																			
<b>その他の事項</b>																			

授業科目名	卒業研究	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間
<b>概要</b>			
各自の問題意識を明確にした上で、幼児教育に関する保育内容や方法の学びを深めることを目的とする。具体的な事例を通して、多角的に保育を研鑽することを通して、実践力の向上に努める。			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども理解に基づいた保育の多様な展開について理解できる</li> <li>2. 文献等を通して、現代の保育にまつわる課題を理解し、子どもを取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を理解できる</li> <li>3. 保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解できる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 保育の基本と諸課題について</li> <li>3. 課題の設定①</li> <li>4. 課題の設定②</li> <li>5. 文献、資料の探索、収集、整理①</li> <li>6. 文献、資料の探索、収集、整理②</li> <li>7. 文献、資料の探索、収集、整理③</li> <li>8. ディスカッション①</li> <li>9. ディスカッション②</li> <li>10. 保育内容の研鑽</li> <li>11. 保育方法の研鑽</li> <li>12. 研究発表準備①</li> <li>13. 研究発表準備②</li> <li>14. 研究発表準備③</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
教科書	なし		
授業の形態	演習		
／方法	／適時文献等の資料を活用し、グループワーク等の演習を行う。		
評価方法	研究発表（80%）、および授業態度（20%）を総合して評価を行う。		
その他の事項	幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	卒業研究	講師名	小川夕也
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	15 時間
概要	<p>これまでの学生生活で身に付けてきた保育・福祉の知識や技能をもとに、各自テーマを探して研究し、発表することを目的としています。これから社会を生き抜くため、できる限り広い視野を持ち、様々な意見に耳を傾けることで大きく成長していきましょう。</p> <p>こちらからテーマを設定する場合もありますが、できる限りゼミ生の考えを尊重していきたいと考えています。</p>		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでに得た知識をもとに自分が追究したいテーマを自ら選び、まとめることができる。</li> <li>2. 自分の研究について、分かりやすく発表することができる。</li> <li>3. 自分または他の学生の研究について、積極的なディスカッションを行うことができる。</li> </ol>		
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. テーマの検討（他の学生とのディスカッション含む）</li> <li>3. レジュメ作成、発表</li> <li>4. テーマ毎の事例研究および実践①</li> <li>5. テーマ毎の事例研究および実践②</li> <li>6. テーマ毎の事例研究および実践③</li> <li>7. テーマ毎の事例研究および実践④</li> <li>8. 中間報告（グループディスカッション）</li> <li>9. テーマ毎の事例研究および実践⑤</li> <li>10. テーマ毎の事例研究および実践⑥</li> <li>11. テーマ毎の事例研究および実践⑦</li> <li>12. 発表準備（発表資料の作成）</li> <li>13. 発表準備（原稿の作成）</li> <li>14. 発表準備（リハーサル）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書	特になし		
授業の形態	演習		
／方法	／情報収集、制作、ディスカッションなど必要に応じた演習を行う。		
評価方法	研究発表（80%）および授業態度（20%）を総合して評価を行う。		
その他の事項	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	卒業研究	講師名	前田雄一
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間
<b>概要</b>			
対人援助職である保育士は、園や施設で人と関わりながら、その人の個性や考え方、心情に触れる仕事です。私たちはさまざまな方法で他者の多種多様な一面に触れ、他者を理解し、支え合っています。そういうたった営みを知る理論のひとつに心理学があります。発達心理学や教育心理学が関連授業には多く取り上げられていますが、心理学の世界はそれよりもさらに広く深いものです。さまざまな心理学の知見に触ることで、さらなる人間理解を深めていくことがこの講義の目的です。			
<b>目標</b>			
1. さまざまな心理学の知見に触ることで、人間理解をさらに深めることができる。 2. 小グループでの活動を通して、成員同士の心理的交流を促進し、実践的な学びにつなげることができる。			
<b>内容</b>			
1. 卒業研究所属ゼミの検討 2. 各ゼミのオリエンテーション 3. 4. 5. 6. 7. 8. 成員の興味や関心に応じて、さまざまな心理学理論の学習や実践を行う。 9. (一部学外活動を伴う場合がある。) 10. 11. 12. 13. 14. 15. 卒業発表			
<b>教科書</b> 適宜資料を配布する。			
<b>授業の形態</b> 演習			
<b>／方法</b> ／適時文献等の資料を活用し、グループワーク等の演習を行う。			
<b>評価方法</b> 研究発表 (80%) 、および授業態度 (20%) を総合して評価を行う。			
<b>その他の事項</b> 公認心理師資格を取得している教員が担当している。			

授業科目名	卒業研究	講師名	板谷雅子
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間
概要 「生き生きとイメージを広めたり、深めたりしていくには、保育者が幼児の感じている心の動きを受け止め、共感する力」をこの授業で学ぶ			
目標			
<p>1. 自分の引き出しを増やすことを目的とし、実践していくことができる</p> <p>2. 材料用具を精選し、様々な素材の特徴や表現の方法などに気づくことができる</p>			
<b>内容</b>			
<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 卒業ゼミのねらい・目的・内容についての話し合い</p> <p>3. 実践</p> <p>4. 実践</p> <p>5. 実践</p> <p>6. 実践</p> <p>7. 実践</p> <p>8. 実践</p> <p>9. 実践</p> <p>10. 実践</p> <p>11. 子どもの製作の実際</p> <p>12. 子どもの製作の実際</p> <p>13. 反省及び研究の考察</p> <p>14. 反省及び研究の考察</p> <p>15.まとめ</p>			
教科書	教科書は使用せず、必要に応じてプリント配付		
授業の形態	教員による説明や実演などから課題の内容を理解し、学生各自が創意工夫しながら製作に取り組む。		
／方法			
評価方法	研究発表 30%、授業態度 70%で総合的に評価します。		
その他の事項	幼稚園教諭として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	卒業研究	講師名	原 悅子
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間
概要	支援を必要とする子ども（人）とのコミュニケーションや関わり方について研究する。対象者が抱えている不自由さを体験し、適切な支援方法、参加への配慮など実践の中から考察する力を獲得する。また、各体験のフィードバックを行い、他者の感覚を知ることで、自らの視野を広げ、観察力や気づく力を育てる。		
目標	1. 支援を必要とする子ども（人）に対しての理解ができる。 2. 適切な援助方法について検討することができる。 3. 些細な変化への気づきについて考察することができる。		
内容	1. オリエンテーション 2. 研究計画策定 研究内容、チーム分けと役割分担 3. スヌーズレン（環境構成） 視覚、聴覚、臭覚、触覚刺激の活用 4. スヌーズレンの体験と考察 体験と効果測定、考察 5. 行事の企画 クリスマス会の企画 6. 行事の体験 行事、不自由さの体験 7. 調理実習の企画 参加についての考察 8. 9. 調理実習 役割への配慮と不自由さの体験 10. 外出の計画 公共交通機関を使用しての演習計画 11. 12. 13. 外出 社会的障壁についての体験 14. 振り返りと研究発表の準備 15. まとめ		
教科書	なし		
授業の形態 ／方法	演習		
評価方法	研究発表（80%）と授業態度（20%）を総合して評価を行う。		
その他の事項			

授業科目名	卒業研究	講師名	北村博文
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間
<b>概要</b> 「幼児教育に関する保育の方法について学ぶ。特に野外における遊びを対象に、季節感・自然事象等について学びを深める。」ことをこの授業で学ぶ			
<b>目標</b>			
1. 季節感について体験することを目的とし、保育者として実践していくことができる 2. 自然事象に关心を持ち、その保育内容や方法を学ぶことができる。			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション 2. 土と水の観察 3. 植物の観察 4. 昆虫の観察 5. 空・雲等の観察 6. 土と水を使った遊びの実践① 7. 土と水を使った遊びの実践② 8. 植物を使った遊びの実践 9. 空・風等を使った遊びの実践 10. 卒業研究のまとめ① 11. 卒業研究のまとめ② 12. 卒業研究のまとめ③ 13. 卒業研究発表の準備① 14. 卒業研究発表の準備② 15. まとめ			
教科書	教科書は使用せず、必要に応じてプリント配付		
授業の形態	演習		
／方法	/文献等の資料を活用し、遊びの実際を学ぶための実践を行う。		
評価方法	研究発表 80%、授業態度 20% で総合的に評価します。		
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	乳児保育Ⅱ	講師名	小川夕也
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30時間
概要	待機児童が社会問題として注目を帶びる中、乳児保育のニーズはますます高まりを見せています。本授業では、現場において細やかな対応が求められる乳児の育ちを正しく理解し、一人一人の心に寄り添える保育者の育成を行います。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針における乳児保育のねらいおよび内容について理解できる</li> <li>2. 保育現場で取り扱う記録の役割および作成方法について理解できる</li> <li>3. 乳児保育における計画の作成について理解できる</li> </ol>		
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 養護と教育を一体的に考える</li> <li>3. 乳児保育のねらいおよび内容</li> <li>4. 1歳以上3歳未満児のねらいおよび内容</li> <li>5. 保育現場で取り扱う記録の役割</li> <li>6. 連絡帳を用いた保護者との連携</li> <li>7. おたよりを用いた保護者との連携</li> <li>8. 長期的な指導計画と短期的な指導計画</li> <li>9. 個々に応じた指導計画</li> <li>10. 諸外国の子育て支援</li> <li>11. 保護者のニーズと拡大する保育サービス</li> <li>12. 理想の保育サービスを考える</li> <li>13. 発表（グループ1）</li> <li>14. 発表（グループ2）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書	『講義で学ぶ乳児保育』 小山朝子 編著 わかば社		
授業の形態	講義・演習		
／方法	／教科書および配布プリントによる講義と、書類作成などの演習を行います。		
評価方法	筆記試験80%、授業への参加度20%で総合的に評価します。		
その他の事項	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	造形表現Ⅱ	講師名	板谷 雅子
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間
概要 造形表現の理解を深め、幼児と造形表現の大切さを学ぶ			
<b>目標</b>			
1. さまざまな表現方法を知り、造形表現の理解ができる 2. 技法や素材の性質を知り、応用力を身につけることができる 3. 子どもの感性を豊かにする造形活動のイメージができる			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション 2. 子どもの絵を読み取る 3. 描画表現 色のたこ焼き 4. 描画表現 墨絵 5. 描画表現 コンテ 6. プラ板 7. 仕掛け絵本 8. 仕掛け絵本 9. 仕掛け絵本 10. 立体カード 11. 立体カード 12. ゴムはんこづくり 13. 絵手紙 14. 砂絵 15. まとめ			
<b>教科書</b> 教科書は使用せず、必要に応じてプリント配付			
<b>授業の形態</b> 演習 <b>／方法</b> 教員による説明や実演などから課題の内容を理解し、学生各自が創意工夫しながら制作に取り組む。			
<b>評価方法</b> 授業態度/課題 80% 試験 20%を総合して評価する。			
<b>その他の事項</b> 幼稚園教諭として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			